

井の国歴史懇話会報

VOL8

発行：井の国歴史懇話会事務局 発行日 平成27年1月1日



新年のご挨拶

徳川宗家 恒孝氏の講話と

来年度に向けての研修展望



井の国歴史懇話会会長 武藤全裕

日本は英国と同じように海に囲まれた素晴らしい国。海のおかげで外国に侵攻されることなく、中国よりの文化を吸収し、どくじの日本文化を積み重ねてきた国です。この素晴らしい日本文化を日本人は学

んでほしい。

徳川氏宗家十八代恒孝氏の低音で静かな語り口調の講話が始まる。

「浜松時代の家康はラッキーに恵まれました。三方原の合戦で大敗したが、合戦のすぐあと武田信玄が死にました。天正九年高天神城を奪い返し、武田軍とのおしくら饅頭が終わります。天正十年本能寺の変もラッキー。同盟者で心を通わせていた信長ですが、家康にとって頭が上がらない人物でした……」と淡々とお話は続けました。

さて、来年はいよいよ徳川家康公没後四百年祭の年を迎えます。この年に合わせ私は、家康公のナンバー2と称される浜松市井伊谷、出身の井伊直政を会員の皆様とともに浜松市民に大いに広報したいものと願っております。

来年度の実地研修の候補地の一つとして、「天下分け目の古戦場関ヶ原」を考えております。東軍の井伊直政の陣・福島正則の陣等。西軍の石田三成の陣・松尾山小早川秀秋の陣・島津隊の陣等の実地学習、直政が島津の兵に討たれ落馬したという「烏頭坂」などの実地研修のコースです。

本年度当歴史懇話会主催の催しに協力下さり、誠にありがとうございました。来年もよろしく願いいたします。

幕末悲劇の女性「村山たか」女の生涯をたどる

長田

なぜ、たか女

船橋聖一氏の小説「花の生涯」の女主人公村山たか女が、晩年終の棲家として、金福寺に入寺しました。寺の入り口に弁天堂を建立し、井伊直弼公・長野主膳息子の多田帯刀の位牌を置き、日夜その冥福を祈っていたそうです。

「村山たか」女について調べていらした「幕末秘祿」の著者でもあり、京都東山一乗寺にある金福寺の住職の小関魯庵師から、私の父が「たか」女のひ孫であると聞かされ、何度か金福寺を訪ねて、話を聞きかけたことが、きっかけとなり「村山たか」女の波乱万丈の生涯を調べてみることにしました。

たか女の足跡調べ

たか女に関する資料は乏しく、彦根城400年祭でお会いした「たちばな会」の西村忠先生も直弼公とたか女の間に娘がいたことは知らなかったとのことでしたが、手掛かりがあるかもと言うことで、多賀大社前の不二屋さんと山田精肉店さんを紹介していただきました。この2軒は、たか女の母親藤山くにの実家とたか女が養女となったところでした。

足跡をたどる資料は、小関魯庵師の「幕末秘祿」、井伊直中が建立し、五百羅漢、直弼公、主膳の墓と、たか女の碑がある天寧寺からいただいた多賀町の元町長さんの林清一郎氏がまとめられた『幕末悲劇の女「村山たか女のこと」』、不二屋さんから頂いた資料、あとは、船橋聖一氏の小説「花の生涯」、諸田玲子氏のノンフィクション小説「奸婦にあらざ」を参考にいたしました。

実際に訪れお話が聞けたのは、金福寺・天寧寺・高源寺（晩年のたか女の肖像画が見つかったお寺）





・不二屋さん
で、あとのところ
は、期待した
答えは得られ
ませんでした。
しかし、林
清一郎氏が、

多賀町史をまとめる際、たか女が立ち寄ったところを
写真に収めていただいたものが残っています。

たか女の足跡

1847年頃、たか女は、孝明天皇に仕える駿河局に
出仕、その後、駿河局がたか女を介して主膳との歌
の交流から、孝明天皇・駿河局・たか女・主膳の關係
ができ、後日、井伊大老の幕政を進める上で朝廷の
連絡に、役立っていったといわれています。

1853年6月3日、彦根藩の警備担当地浦賀沖に、
ペリー提督の率いる4艘の米艦隊が投錨しました。
翌年、藩は相州と京都守護の兼任を命じられ、直弼
公は大老職に就きましたが、米国との通商条約・将
軍家定の後任決定等、崩壊寸前の幕府を1人で支え
るという大変な宿命を負った大老職就任でした。

この時期より、たか女は尊王攘夷派への対策をた
てるため、彦根藩京都所司代・長野主膳の手足とな
って隠密活動を始めました。たか女は、京に滞在し、
駿河局の侍女という立場や芸事で知り合った多くの
人から、様々な情報を手に入れ、主膳に連絡し、ひ

いては直弼公のため智謀のある限りを傾け、立ち働
きました。

安政の大獄への加担とその後

1858年6月19日 日米通商条約調印

6月25日 將軍家定の後継者紀州慶福に
決定発表

7月6日 家定死去

8月8日 孝明天皇が水戸藩に幕府不信、
幕府変革を命じた勅書を出します。

以上の事柄を発端とし、大老直弼公の幕政に事
々に反対する水戸藩を中心とする反幕府運動の関
係者の捕縛が始められ安政の大獄が始まりました。

安政の大獄の後、水戸・長州・薩摩の藩士や、勤
皇の志士の反撃となって、桜田門外での井伊大老の
暗殺、京都での勤王派天誅組の活躍へと時代は移
って行きました。

直弼公の不遇の死による御家断絶を止めるため、
主膳は大きな働きをし、彦根藩の藩主相続が認めら
れました。そして、たか女と主膳は、生前直弼公が進
めていた「公武合体」の実を上げるための、皇女和
宮の第14代將軍家茂への降嫁のため、立ち働き成
功させました。1862年、幕府の中心が、反井伊大老
の情勢に変化したのを受け、彦根藩の中も様変わり
し、主膳は、断罪され、葬儀も許されませんでした。
一方たか女は、天誅組に捕らわれ、三条大橋に縛り
付けられ、生晒しにされましたが、3日後、皇室ゆか

りの宝鏡寺の
尼さんに助け
られ、後に金
福寺に入寺し
ました。

明治9年9月
30日、金福寺
で68歳の波乱
万丈の生涯を
終えました。

年号	西暦	年令	事項
明治九	一八七六	六八	法名は清光祖省禪尼
慶応三	一八六七	五九	当寺に於て歿し、円光寺に葬られる。
文久二	一八六三	四五	当寺に弁天堂を建てる。
万延一	一八六〇		江戸城桜田門外の変起り直弼殺さる。
安政五	一八五八	三九	洛西一貫町で長州・土佐藩激徒に捕われ 三条鴨川で生晒しにされ三日後助け られ、尼となり金福寺に入り名を妙壽 と改める。
弘化三	一八四六	三三	直弼江戸へ出府す。
嘉永六	一八四三	三〇	直弼大老となり日米通商条約調印さる。
天保二	一八三一	二五	その頃たか女京都に於て隠密となつて 活躍す。安政の大獄行なわる。
文政九	一八二六	一八	井伊直亮の侍女となる。
天保二	一八三一	二五	侍女を辞して祇園で芸妓となる。
天保二	一八三一	二五	金閣寺の世話になる。
天保二	一八三一	二五	帯刀を生み常太郎と名づける。
天保二	一八三一	二五	多田一郎と別れ般若院に帰る。
天保二	一八三一	二五	埋木の舎に出入し、直弼の寵愛を得る
天保二	一八三一	二五	長野主膳と知り合う
天保二	一八三一	二五	直弼江戸へ出府す。
天保二	一八三一	二五	弘尚館を開いて居た主膳に入門。
天保二	一八三一	二五	ペリー浦賀に来航し開港せまる。

であろうし、ひとたび災害が起これば、食にこと欠くことが推測される中で、鄙にはまれな文化を担ってきたことに驚かざるをえない。



その一つが「寺野ひよんどり」である。その発祥は、伊藤氏が三河から持ち込んできたかともこの地にあったものを引き継いだかは定かではないが、「能衆」として一族が役割を分担して祭事や芸能を伝え、今は国指定の重要無形民俗文化財に指定されている。

祭事そのものだけでなく、それに使用する衣装の染や面の制作にあたっていることである。寺野ひよんどりに使われている十七面は、伊藤弥兵衛定俊制作の面が現在も使用されている。神澤おくないに使う面にも寺野伊藤弥兵衛の名が見られる。幾つかの三遠一帯の山あいに残る田楽や神楽等の面を必要とする祭の担い手を果たしていたのではないかとと思われる。

二つ目は涅槃図の制作である。現在、渋川の東光院と熊の光雲寺の二ヶ寺に寛保二年の伊藤弥兵衛祐俊の筆になる涅槃図が残されている。大本山奥山方広寺にも寄進していると伝えられているが、現在は見当たらない。明治の大火で焼失したのかもしれない。大幅の画面に何十という人や動物を配置するための技法は高度なものを有していたと思われる。定俊、祐俊は親子であった。

時を経て、明治になって渋川に洋風の学校校舎建築をしたのは、本家の伊藤氏であった。田沢小学校の建築も同様であったという。

更に、昭和になり、二十代伊藤信次氏は六十歳になって日本画を習い始め、春秋合わせて二十回余の入選を果たしている。その息子八右氏は能面師として活躍している。深い山中にありながら数百年にわたって、文化の灯をともし続けてきた伊藤一族の執

念に敬意を表さざるをえない。伊豆の豪族伊東氏の流れをくみ、一族の中に山間部に移住して芸能を維持してきた者もある。例えば、信州新野の雪まつりと大きく関わっているといわれている。伊豆伊東氏の中から輩出した狩野派のDNAの流れまでを想像してしまう。

戦乱に明け暮れる世にいち早く別れを告げ、平穏な暮らしを求めて入り込んだ山の中でも一族の出自を伝える肖像画や木造等の史料を数多く残し、伝承が息づく「落人の里」は気品のある心優しい里人に囲まれて今も歴史のロマンに満ちている。



26年度の予定 (敬称略)

1月22日(木) 13:30~15:30

講話「山深き里に香る文化の流れ」

～寺野伊藤一族の伝説…涅槃図と能面～

講師 柴田宏祐

1月18日(日) 浜松市みおつくし文化センター

13:30分開演 12:30分(開場) ¥1,500

小和田哲夫氏講演

「徳川四天王 井伊直政の生涯」

2月14日(土) 8:30~17:00

「龍潭寺住職と歴史にふれる旅④」

現地研修 涅槃図と渋川井伊氏の史跡拝観ツアー

会費 ¥5000

2月22日(日)

みおつくし劇団「風雲！井伊の牙」

浜松市みおつくし文化センター

4月7日 13:30~

総会(予定)